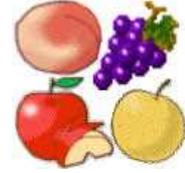


# 平成28年度 果樹情報 第6号

(平成28年6月6日)



福島県農林水産部農業振興課

## 1 気象概況（5月後半：果樹研究所）

平均気温は、4半旬が16.4℃で平年並、5半旬が19.6℃で平年より2.4℃高く、6半旬が20.3℃で平年より2.5℃高く経過しました。

この期間の降水量は22.5mmで平年の44%でした。

## 2 土壌の水分状況（6月1日現在）

土壌水分（pF値：果樹研究所なし日本ほ場：草生・無かん水）は、深さ20cmが2.7、深さ40cmが2.6、深さ60cmが2.4であり、表層ではやや乾燥状態にあります。

## 3 発育状況（6月1日現在）

### (1) もも

#### ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「あかつき」は縦径が42.4mmで平年比128%、側径が35.7mmで平年比137%と平年より大きく、「ゆうぞら」は縦径が42.5mmで平年比125%、側径が34.1mmで平年比136%と平年より大きい状況です。

生育日数による比較では、「あかつき」、「ゆうぞら」ともにほぼ平年並の肥大状況です。

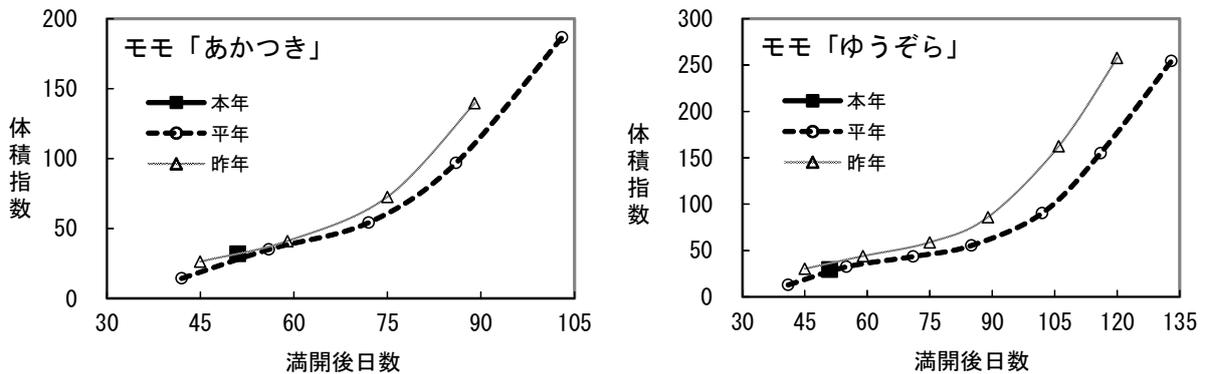


図1 ももの果実肥大

#### イ 新梢生長

表1 ももの新梢生長（満開後50日比較）

(平年：1996～2015年)

品 種	新梢長(cm)			展葉数			葉色 (SPAD値)			新梢停止率(%)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
あかつき	7.5	9.7	77	12.2	13.2	92	45.7	41.7	110	7.5	31.4	24
ゆうぞら	12.5	10.2	123	14.0	13.0	108	41.9	41.5	101	—	35.0	—

#### ウ 核障害

満開後50日における「あかつき」の核障害発生は、核頂部亀裂が45.0%と平年並です。縫合面割裂は確認されていません。

#### エ 発育予測

「あかつき」の発育予測では、本年の硬核期開始日は6月4日頃で平年より6日早い見込みです。

(2) なし

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」は縦径が25.3mmで平年比123%、横径が29.0mmで平年比127%と平年より大きく、「豊水」は縦径が27.4mmで平年比122%、横径が29.4mmで平年比129%と平年より大きい状況です。

生育日数による比較では、「幸水」、「豊水」ともほぼ平年並です。

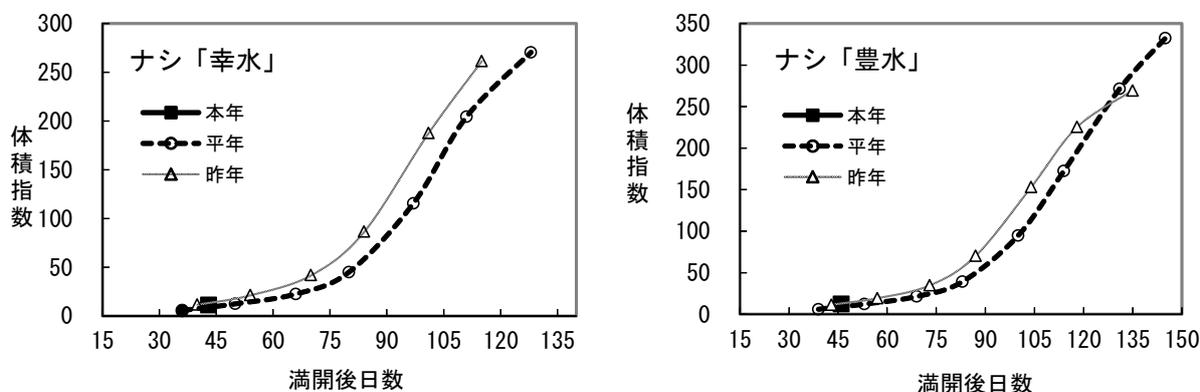


図2 なしの果実肥大

イ 新梢生長

表2 なしの新梢生長（満開後40日）

品種	予備枝新梢長(cm)			不定芽新梢長(cm)			予備枝葉数(枚)		
	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比	本年	平年	平年比
幸水	64.4	55.9	115	61.6	52.5	117	19.7	18.0	110
豊水	63.9	63.8	100	61.4	54.8	112	19.5	18.1	108

注) 平年値：「幸水」の新梢長は1990～2015年、葉枚数は1998～2015年、「豊水」の新梢長は1991～2015年、葉枚数は1998～2015年の平均値

(3) りんご

ア 果実肥大

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が33.4mmで平年比117%、横径が36.4mmで平年比127%、「ふじ」は縦径が32.7mmで平年比122%、横径が33.7mmで平年比138%と両品種とも平年より大きい状況です。

生育日数による比較では、「つがる」、「ふじ」ともほぼ平年並です。

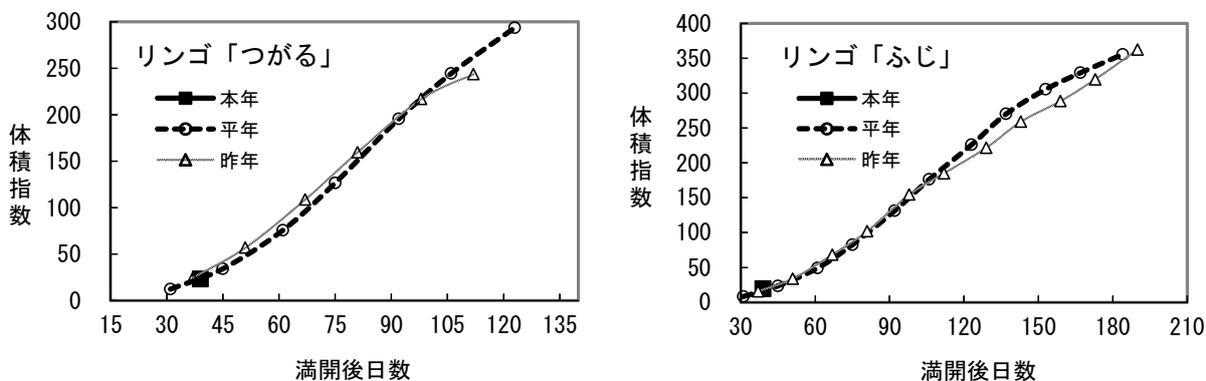


図3 りんごの果実肥大

イ 新梢生長  
表3 りんごの新梢長及び新梢停止率

品種	満開後 日数	新梢長				新梢停止率(%)	
		本年	昨年	平年	平年比(%)	本年	昨年
つがる	20	10.2	14.9	13.1	78	8.9	8.9
	30	14.5	17.1	18.4	79	40.0	68.9
ふじ	20	14.3	18.7	15.5	92	4.4	20.0
	30	20.0	21.9	21.5	93	31.1	62.2

注) 新梢長平年値は、1996～2010年の平均

供試樹：「つがる」/M.26/マルバカイトウ 10年生、「ふじ」/マルバカイトウ 14年生

ウ 結実状況

目通り付近の中心果結実率は、「つがる」が95.6%、「ふじ」が92.2%で良好です。

(4) ぶどう

ア 新梢生長

発芽後50日における「巨峰(有核)」の新梢長は57.4cmで平年比105%と平年よりやや長く、展葉数は9.7枚で平年より少ない状況です。

イ 開花状況

「巨峰」(有核栽培)の開花始めは5月28日、満開は5月31日で、平年より9～10日早く、「巨峰」(無核栽培)の開花始めは5月29日で、満開は6月2日で平年より6～7日早まりました。

「あづましずく」(長梢栽培)の開花始めは5月27日、満開は5月31日で、平年より8～9日早まりました。

表4 ブドウの開花日 (6月2日現在)

品 種	開花始め			満開		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
巨峰(有核)	5月28日	6月6日	5月24日	5月31日	6月10日	5月28日
巨峰(無核)	5月29日	6月4日	5月25日	6月2日	6月9日	5月28日
あづましずく(長梢)	5月27日	6月4日	5月24日	5月31日	6月9日	5月27日

注) 巨峰(有核)の平年は、1988～2015年。巨峰(無核)の平年は、1998～2015年。

あづましずくの平年は、2004～2015年。

4 栽培上の留意点

(1) 共 通

現在、土壌水分は表層でやや乾燥状態にあります。今後、降水量が少なく土壌の乾燥が進む場合は、以下の対策を実施しましょう。

ア かん水

5月から夏期にかけて果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度であるので、1回のかん水は25～30mm程度(10a当たり25～30t)を目安とし、5～7日間隔で実施します。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くしましょう。

イ 草刈り

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょう(草生園における地表面からの蒸発散量は、刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされています)。

ウ マルチ

刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

(2) も も

この時期は果実や新梢生育が旺盛な時期であるので、着果管理や土壌の水管理等を徹底

し、新梢および果実の初期生育を促しましょう。

ア 仕上げ摘果

仕上げ摘果は、硬核期前までを目安に早急に実施しましょう。

摘果の程度は最終着果量の1～2割増とし、樹勢や双胚果、核障害の発生を見ながら加減します。

本年の双胚果の発生率は平年並であり、また、「あかつき」の核障害の発生率も平年並となっています。双胚果や核障害の発生は、園地や品種によって異なるので、仕上げ摘果前には園内の状況を確認して作業に当たりましょう。なお、双胚果や核障害の発生が多い場合は、仕上げ摘果時に着果量をやや多めとし、障害が明らかになる硬核期終了後に修正摘果で適正着果量としましょう。

イ 樹勢回復対策

樹勢が弱い樹では早めの摘果に心がけ、着果数を制限し新梢生育を促しましょう。また、土壌の乾燥が続く場合はかん水の実施や樹冠下マルチが有効となるので適宜実施しましょう。

ウ 新梢管理

5月下旬から6月中旬は新梢の生育が最も盛んな時期で、樹勢の強い樹や若木等では樹冠内が混雑しやすくなります。このため、樹冠内部や主枝、亜主枝の基部、側枝の基部などの徒長しやすい新梢は早めの摘心や夏季せん定を実施しましょう。なお、樹勢の弱い樹については葉面積の確保を優先し、夏季せん定は行わないか、最小限とします。

(3) なし

ア 仕上げ摘果

予備摘果が終了次第、着果量等を確認して仕上げ摘果を行いましょ。果実の大きさにバラツキが認められる場合は、側枝単位で仕上げ摘果を実施します。着果量は、「幸水」「豊水」で満開後50日頃までに予定収穫量の20～30%増に整理するようにし、樹勢を考慮しながら過剰摘果にならないよう留意しましょう。

イ 新梢管理

新梢管理として、側枝基部(20～40cmの範囲)に発生した立ち枝新梢のせん除を行いましょ。ただし、主枝・亜主枝上から直接発生する新梢の数が少なく、更新候補枝の確保が困難な部位では側枝基部の側面から発生した新梢を1本残し、冬季せん定時に利用します。なお、新梢のせん除は、満開後45～60日に行うと花芽分化を促進しますが、満開後60日以降では樹勢低下や果実糖度の低下に結びつきやすいので注意しましょ。予備枝は先端新梢の生育を促すため、6月上旬までに伸長の良好な新梢を残し1本に整理しましょ。

(4) りんご

ア 摘果

予備摘果は、満開30日後までに終了しましょ。凍霜害により「ふじ」等で結実が少なかった樹では、果そう葉の少ない果実でも初期肥大や果形の良い果実は残し、樹全体の着果量を確保しましょ。また、中心果結実率の低い樹で、中心果が不足する場合は側果の中から果形の良い果実を選び着果量を確保しましょ。

仕上げ摘果は満開60日後までを目安に実施しましょ。果形や肥大状況等をよく観察しながら実施し、小玉果や変形果、障害果、病虫害果、果台の長い果そうの果実、果そう葉の少ない果そうの果実などを摘果し、形質の良い果実を残しましょ。結実の少ない樹は着果数の確保を優先し、著しい不良果を対象に最小限度の摘果としましょ。

仕上げ摘果の程度は、「つがる」は3頂芽に1果、「ふじ」「陽光」「ジョナゴールド」「玉林」「さんさ」「緋のあづま」等の品種は4頂芽に1果を目安とします。

果形が不良な樹では、仕上げ摘果で基準より多めに果実を残し、修正摘果をこまめに行いましょ。

イ 新梢管理

主枝や骨格枝の背面、切り口等の不定芽から発生している徒長枝はかきとり、薬剤の通りを良くしましょ。

## ウ カルシウム剤の葉面散布

ビターピットの発生は、樹勢が強い樹、着果量が少ない樹で果実が大玉となりやすい場合及び土壌の過乾燥や過湿により土壌からのカルシウムの吸収が阻害される場合に助長されます。これらが想定される園地では、発生防止のためにカルシウム剤の葉面散布を実施しましょう。

## (5) ぶどう

生育が平年より6～10日進んでいるため、ジベレリン処理時期を逃さないよう花穂整形等の作業を計画的に進めましょう。花穂整形は遅くとも満開期までには終了しましょう。

ジベレリン処理に際して、樹の中で開花にばらつきがある場合は、2回程度に分けて処理しましょう。

「巨峰」でフルメット液剤を使用する場合は、ジベレリン1回目処理時か2回目処理時のいずれか1回の使用とし、使用基準を遵守しましょう。樹勢が強く、花ぶるいが心配される園地では、着粒安定を目的としてジベレリン1回目処理時に加用します。樹勢が弱い樹では、花ぶるいの心配は少ないが、果粒肥大が劣る恐れがあるので、ジベレリン2回目処理に加用します。ジベレリン2回目処理に加用する場合は、着色遅延が起りやすいので、着果過多とならないよう注意しましょう。

「あづましずく」はジベレリン50ppm液を満開4～7日後頃に1回処理すると、実止まりや果実品質が安定します。

ぶどうは乾燥には比較的強いですが、連続無降雨日数が15日を越えるような場合は、かん水が必要です。かん水量は、1回当たり30～40mm程度行います。ただし、ジベレリン処理直前に大量のかん水を行うと、新梢生育が旺盛になり、花ぶるいの原因となるので多くなりすぎないように注意しましょう。

## 5 病害虫防除上の留意点

### (1) 病 害

#### ア りんご褐斑病、輪紋病、腐らん病

褐斑病の重要防除時期は、子のう胞子の飛散が盛んとなる6月上旬頃からですので、発生が多い場合はこの時期の防除を徹底しましょう。

輪紋病は、湿度が高く気温が上昇する6月以降に感染しやすくなりますので、特にこの時期以降の防除を徹底しましょう。

また、腐らん病の発生が増加傾向にあります。枝腐らんや胴腐らんは、病患部の周囲の健全部まで5cm程度を切り取る若しくは削り取るよう心掛けましょう。

#### イ ももせん孔細菌病

せん孔細菌病の春型枝病斑の発生ほ場割合は中通り北部で平年並、新梢葉での発生ほ場割合は平年より高い状況であり（平成28年5月27日付け病害虫防除情報）、今後の気象経過によっては激発するおそれがあるので注意が必要です。第一次伝染源となる春型枝病斑は現在も発生が続いているため、園内を再度よく観察し、見つけしだい徹底してせん除しましょう。

また、第二次伝染源となる発病葉、夏型枝病斑および発病果実についても取り除くとともに、天候に留意しながら10日間隔でせん孔細菌病防除剤を散布しましょう。ただし、早生種では収穫前日数に十分注意し、使用する薬剤を選択しましょう。発生が多い園地では、仕上げ摘果終了後速やかに袋掛けを行いましょう。



図4 春型及び夏型枝病斑



図5 発病果実

## ウ なし黒星病

黒星病の果そう基部病斑の発生は場割合は、中通り、浜通りともに平年よりやや高く、浜通りでは発生程度が高い状況にあるため注意が必要です（平成28年5月27日付け病害虫発生予察情報・注意報第2号）。罹病部位は見つけしだい取り除くなど耕種的防除を徹底するとともに、6月中は黒星病防除剤の散布間隔が10日以上あかないように注意しましょう。また、散布むらのないよう十分量を散布しましょう。

## (2) 虫 害

### ア ハマキムシ類

フェロモントラップによる予察調査を行っている場合は、誘殺盛期から10日後頃が防除適期にあたるので、この時期に防除しましょう。

### イ モモハモグリガ

本種の発生には放任園や無防除のハナモモ園が影響していると考えられるため、こうした発生源が近隣に存在する園地では、今後も発生に注意しましょう。

### ウ ナシヒメシンクイ

今後、気温が平年並みに推移した場合、第1世代成虫の発生盛期は6月4半旬頃と考えられ、第2世代の防除適期は6月6半旬頃になると推測されます。

本種の第1世代幼虫は、主にもも等の核果類の新梢に寄生（芯折れ症状）し、第2世代以降はなしなどの果実に加害します。例年、なしでの果実被害が多い地域では、近隣のもも等における防除も徹底しましょう。

### エ カメムシ類

山間および山沿いの果樹園では、カメムシ類の飛び込みをよく観察し、多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行いましょう。

### オ モモノゴマダラノメイガ

本種の発生が多い地域では、本種に効果のある薬剤で防除を行いましょう。

表5 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定（平成28年5月31日現在）

今後の気温 予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期	第1世代 成虫盛期	第2世代 防除適期
2℃高い	5月28日	6月3日	6月14日	6月23日
平年並み	5月28日	6月3日	6月16日	6月27日
2℃低い	5月29日	6月4日	6月22日	7月4日

注) 演算方法は、三角法による。

起算日 モモハモグリガ：4月15日、ナシヒメシンクイ：4月20日

### 病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344  
(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL: <http://www.new-fukushima.jp/>

